

企画展「小林礫斎 手のひらの中の美 ～技を極めた繊巧美術～」

2010年11月20日（土）～2011年2月27日（日）

たばこと塩の博物館（東京渋谷・公園通り）で開催



技が冴える ミリ単位の美術工芸 - 精巧なミニチュア約800点を一堂に展示

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）では、2010年11月20日（土）から来年2月27日（日）まで、企画展「小林礫斎 手のひらの中の美 ～技を極めた繊巧美術～」を開催します。

昔から、各時代、各地域で人はあらゆるものを元の大きさから縮小し、それを愛でてきました。特に日本人は、古くから小さいものへの愛情と思い入れが強かったようで、さまざまなミニチュアが作られてきました。

明治から戦前にかけて、驚くべきミニチュア作品を制作していた小林礫斎という人物がいました。礫斎の作品は、素材に凝り、実物を忠実に極限まで小さくしていくことと、随所に驚くべき仕掛けを施すところに特徴があります。礫斎のミニチュアは、単なる玩具の域を超え、美術工芸品として位置づけられるものです。当館では、1990年に礫斎の作品を中心とするミニチュア展を開催して以来、彼の作品の収集などを行ってきました。今日、当館のミニチュア作品の収蔵数は800点を超えます。

今回の展覧会では、当館所蔵の礫斎の極めて小さな作品群を中心に、礫斎のご遺族所蔵の作品を展示、当館が近年新たに収蔵した作品や、江戸玩具コレクションも初公開します。総数約800点の作品を一堂に展示するこの機会に、ミリ単位の美術工芸品の数々をぜひお楽しみください。

〈展示関連の催し〉 展示関連講演会・ミニコンサート、学芸員による研究報告などを予定しています（詳細は別紙参照）

企画展「小林礫斎 手のひらの中の美 ～技を極めた繊巧美術～」開催概要

名 称 小林礫斎 手のひらの中の美 ～技を極めた繊巧美術～
（コバヤシレキサイ テノヒラノナカノビ ～ワザヨキワメタセンコウビジュツ～）

会 期 2010年11月20日（土）～2011年2月27日（日）

会 場 たばこと塩の博物館 4階特別展示室

住 所 東京都渋谷区神南 1-16-8（渋谷駅から徒歩10分。公園通り）

主 催 たばこと塩の博物館

入館料 大人・大学生 100円（50円） 小・中・高校生 50円（20円）

※（ ）内は20名以上の団体料金 ※満70歳以上は入館料無料（要証明書）

休館日 月曜日（ただし、1/10は開館）、1/11（火）、年末年始（12/29～1/3）



お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褰地（ほろち）由美子

E-mail: horochi@tsmuseum.jp

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-16-8

TEL: (03) 3476-2041 FAX: (03) 3476-5692

<http://www.jti.co.jp/Culture/museum/WelcomeJ.html>

ご質問、画像データのご希望などございましたら、お気軽に広報担当・褰地までご連絡ください。

【展示関連イベント】 ※整理券制

〈講演会〉

11月27日(土) 「小林礫斎・人と作品」

講師：岩崎均史(当館主席学芸員)

1月16日(日) 「ミニチュアコレクション ～コレクターと作家の見果てぬ夢～」

講師：岩崎均史(当館主席学芸員)

1月22日(土) 「小さきモノへの偏愛 ～切手・昆虫・細密工芸～」

講師：山下裕二(明治学院大学教授)

〈ミニコンサート〉

12月18日(土) 「倉田澄子 クリスマスミニコンサート」(チェロ演奏とお話)

演奏とお話：倉田澄子(チェリスト 桐朋学園大学音楽学部教授)

※展示関連講演会、ミニコンサートは、いずれも14時から1階視聴覚ホールで開催。参加費無料(ただし入館料は必要です)。定員は、先着80名(いずれも当日10時より整理券を1名様につき1枚配布します)。

【当館学芸員による研究報告】

12月5日(日)

「古文書からみる16～18世紀メキシコのたばこ」 榊玲子

12月12日(日)

「享保期のせりふ芸 ～せりふ正本『たばこうり』比較～」 西田亜未

1月29日(土)

「蘭学者 大槻玄沢が見た外国の喫煙具」 湯浅淑子

2月5日(土)

「江戸のモノづくり ～日本の近代化再考～」 半田昌之

2月6日(日)

「一風変わった塩づくりから読み解く製塩技術 ～青ヶ島の地熱製塩～」 高梨浩樹

2月11日(金)

「寛永～寛文期の文化史の一側面 ～『隔冥記』拾い読み～」 岩崎均史

2月19日(土)

「明治期のグラフィック ～たばこポスターを中心に～」 鎮目良文

※いずれも14時から1階視聴覚ホールで開催。参加費無料(ただし入館料は必要です)。定員80名(当日先着順)。

展示作品のご紹介



1. 「桑兎木地蒔絵硯箱」
41.3×29.1×8.1 mm



2. 左「鶴図屏風」
16.2×17.2mm
右「鳥図屏風」
19.8×20.4mm

3. 「象牙簞笥」
8.5×5.4×8.4mm



5. 左「米細字」
6.6×3.5mm
右「米絵（鳥追）」
6.6×3.5mm



4. 「革文庫」
10.9×9.2×4.1mm



6. 手前から時計回り
「瓶敷」 17.8×7.5mm
「茶杓」 17.8mm
「建水」 5×12.1mm
「火鉢」 15.4×22.4mm
「やかん」 14.0×8.1mm



小林礫斎（こばやしれきさい：1884年～1959年）

本名は小林夏太郎。実家は指物や牙彫り（げぼり）職人の家であり、礫斎は、江戸時代から代々世襲された号で、彼は四代目にあたる。小学校卒業と同時に象牙彫りの修行をし、その後、指物技術も習得した。年若くして高度な技術を習得した礫斎は、主に袋物商の求めに応じ、たばこ入れの筒や根付けなどの制作を行っていた。やがて、時代の変化により、余技の範疇であったミニチュア制作に没頭していった。もともと職人としての高い技術と気概を持っていた礫斎が作るミニチュアは、ただ小さいというのではなく、精巧な細工、随所に施された仕掛けなど、確かな腕に支えられた「美術工芸」とよべるものである。知る人ぞ知る礫斎は、まさに不世出の天才といえる。

画像データの用意がございました。ご掲載いただけるようでしたら、画像の番号を広報担当までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

広報担当：褰地 03-3476-2041 e-mail: horochi@tsmuseum.jp